

事業報告

総合科学博物館における企画普及系の業務について—平成7年度～17年度

岩田 憲二*

On the tasks assigned to the Planning & P.R. Section of the Ehime Prefectural Science Museum from the fiscal year of 1995 to 2005
Kenji Iwata

ABSTRACT

Author has been engaged in the education program as a chief of the Planning & P.R. section in the Ehime Prefectural Science Museum for 11 years. In this paper, data and the process of tasks about education programs were described so that we could get the smooth joining of private sector to the management of our museum after April 2009.

In our museum, education program has increased in activities since the opening. However, a rapid decline in financial situation has brought a personnel reduction and a decrease in budget. Although three curatorial staffs have been engaged in the section, none of curatorial staff is assigned to the section in 2008 at last.

Author wrote this paper also for a reference in transferring many kinds of tasks with education programs to a private company which is going to take part in the management of our museum.

はじめに

愛媛県総合科学博物館は平成6年11月に開館し、20年度で満14年を迎えた。この間、300万人もの来館者が当博物館に来館し（平成21年3月15日現在）、展示・プラネタリウムの観覧や講座・講演会等各種教育プログラムへの参加など、多様な形で博物館を利用していただいた。当館には、こうした博物館事業を企画し、事業の広報を担当する部署として振興課企画普及係が設置され、博物館の「四つの機能」の一つである教育普及活動を含む博物館業務を受け持っている。

本稿では、筆者が振興課企画普及係長（専門学芸員）として博物館の企画及び広報部門を担当した平成7年度から17年度までの業務内容の概略を記した。筆者は既に、開館4年目の時点での教育普及活動の実施状況等をまとめているが（岩田,1998）、今回は11年間の企画普及係長としての職務を総まとめする形で本稿を執筆した。

なお、平成21年度から指定管理者制度が当館にも導入されることになり、人材派遣会社のイヨテツケーターサービス（株）がその任にあたる事になった。指定管理者の業務分野には企画普及系の業務全般が含まれる予定なので、県直営時代の企画広報業務がスムーズな形で指定

管理者に引き継がれるための基礎資料として活用されれば幸いである。

1 博物館組織における企画普及系の役割と位置付け

企画普及係が担当する業務については、総合科学博物館処務規程第2条「博物館の課並びに係及び科の分掌事務」の中の「振興課企画普及係」第(1)項から第(6)項において、下記の通り定められている。

- (1) 自然史、科学技術及び産業史（以下「自然史等」という。）に関する講座の開設、行事の開催等に関すること。
- (2) 博物館の広報に関すること。
- (3) 博物館利用者に対する指導及び助言に関すること。
- (4) 博物館友の会に関すること。
- (5) 他の教育機関との協力及び援助に関すること。
- (6) その他自然史等に関する啓発に関すること。

上記項目では、講座等の開催や広報といった博物館の教育普及活動を中心とした業務を担当することになっているが、実際にはこの他に学芸業務の予算管理や展示（巡回展）業務も担当した。館の組織でいうと、企画普及係は振興課に属し、博物館事業を受け持つ係として位置付けられた（表1）。

*愛媛県総合科学博物館 学芸課長
Chief of the curatorial division

表1 愛媛県総合科学博物館組織構成

名誉館長（有馬朗人）

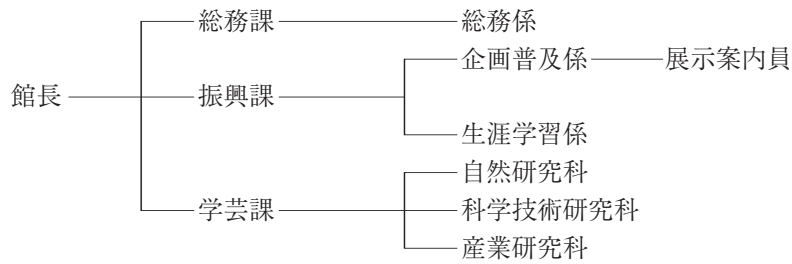


表2 企画普及係人員構成（H7～H17）

係内ポスト	7年度	8年度	9年度	10年度	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度
係長・専門学芸員	筆者	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---
行政職	1	---	2	---	---	3	---	4	---	5	---
学芸員Ⅰ	1	2	---	---	3	---	4	---	---	5	---
学芸員Ⅱ	1	2	---	---	3	---	---	4	---	欠員	欠員
22条職員	1	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---
日々雇用職員	1	---	---	2	---	3	---	---	---	---	---

異：人事異動 退：退職 欠員：学芸員Ⅱが移動後、補充なし 休：休職

表中の数字は、各ポストの何代目かを表示。行政職と学芸員Ⅰは年度末・年度初めで異動

係の構成は表2のとおり、係長（専門学芸員）＋行政職員1名＋学芸員2名＋臨時職員（22条職員）1名が基本構成となっていた。筆者（係長）以外の職員は何れも2～3年周期の異動で入れ替わったので、係業務の理解と継続性に腐心しなければならなかった。なお、年度途中に異動等の理由で欠員が生じた場合は、不定期ではあるが日々雇用職員が1名配置されることもあった。この4人体制は平成15年度まで続いたが、16年度に学芸員が県美術館へ1名異動したあとは欠員の状態が続き、更には17年度途中から行政職員が事情により不在となり、それ以降は係業務を維持するのが精一杯の状態であった。

博物館の組織上のラインでは、管理職である振興課長（行政職）の下に企画普及係長（学芸員職）が位置することになり、企画普及係が学芸課関連業務（予算・広報・特別展運営補助等）を後方支援する位置付けにもかかわらず、学芸課長（学校教員から異動）とは別のラインに位置していた。つまり、プロパー学芸員の企画普及係長が、学芸部門の統括責任者である学芸課長ではなく振興課長の指揮命令系統下に入っており、組織運営の点から見ると、若干の当惑を感じるライン構成となっていた。筆者の感想では、こうしたライン構成によって両課の連絡調整のため必要以上に労力を割かねばならなかった。学芸業務に関し、本庁（12年度以降、教育委員会生涯学習課：11年度以前は知事部局の生活文化部文化振興課等）との連絡調整の大半は振興課が窓口となっていたが、学芸業務に関する両課の調整は企画普及係が担当した。

県外の自然科学系博物館等を見ると、教育普及部門を担当する部署は教育普及課（千葉県立中央博物館）・企画普及課（神奈川県立生命の星・地球博物館）・教育課（茨城県自然博物館）など課レベルで設置している。県内では、当館とほぼ同時期に開館した愛媛県歴史文化博物館は当館と全く同じ組織構成になっているが、科博・歴博と並ぶ県立三館の一つである愛媛県美術館では、学芸課の中に普及係を置き、学芸課長の下に普及係長を配置するライン構成となっている。

2 企画普及系の業務

前章で触れたように、企画普及係は館の教育普及活動（表3）を主業務として受け持っていた。表3に掲載した各種係業務のうち主要業務の概略を以下紹介する。

表3 企画普及係年次別業務

区 分	事業小項目	年 度											備 考
		7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	
博物館 講座	講座の企画管理	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	チラシポスター作成	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
特別展 運営	展示業務発注	○	○	○	○								11年度以降, 学芸課
	図録編集	○	○	○									10年度移行, 学芸課
	チラシポスター作成	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	○	16年度は学芸課担当
	オープニングセレモニー	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	関連イベント実施	○		○									
	展示監視員管理	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	有料広告			○	○	○	○	○	○	○	○		
巡回展 開催	巡回展管理運営	○		○	○	②	○	②	②	②			
	チラシポスター作成	○		○	○	○	○	○	○	○			
広報用務	定期広報(発送業務)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	取材対応	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
講演会	科学講演会	④	③	③	②	③	②	②	②	②	②	②	おもしろ科学講座含む
	特別展記念講演会		○	○	○	○	○	○	○	○	○		10年度は企画展記念
	巡回展記念講演会				○	②	○	○	○	②			
	博物館セミナー						○	○	○	○	○	○	
映画会	映画会	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
学校連携	学校・教委訪問	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	出前講座管理	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	インターンシップ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
博物館 実習	実習企画・管理			○	○	○	○	○	○	○	○	○	
印刷物 発刊	博物館だより	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	年報	○	○	○	○	○	○	○	○	○			16年度から総務が担当
	常設展図録	○		○									9年度は再版
	学習ノート	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
	年間行事表				○	○	○	○	○	○	○	○	
科学 イベント	ロボット相撲大会	○	○	○	○	○	○	○	○	○			16年度以後実施せず
	外部機関共催事業	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
国等の 事業実施	文科省理科教材製作								○				中学校理科教材製作
	文科省地域子ども教室										○	○	18年度まで実施
関連団体	友の会(事務局)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	ボランティア											○	17年度から導入
展示 案内員	労務管理	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	採用や研修も含む
情報機 器整備	エルネット整備					○							
	科学館モデル整備事業						○						
	インターネット導入					○							
	ホームページ開設						○						HP管理は生涯学習係
博物館 団体	県博協事務局						○	○					県立3館でローテーション
	博物館団体窓口	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	日博協・全科協・連携協等
予算実務	学芸業務予算全般	○	○	○	○	○	○	○	○	○			16年度以降, 企画予算のみ

○：当該事業を実施（○数字は同一年度内で複数回実施した時の回数）

(1) 博物館講座

博物館講座は当館で行う代表的な教育普及事業で、年間50-60講座前後開催した(表4)。講座には親子自然教室・自然観察会・星空観察会・科学工作教室・科学実験教室・産業講座の6種類があり、毎年応募者が定員を上回った。開館後数年間は外部講師の比率が高かったが、現在では産業講座の特殊な部門以外は学芸員が講師を務めている。また、予算削減に伴って、自然観察会や産業講座での貸切バス使用が減り、現地集合が増えている。

講座の実施に際しては、企画普及係と学芸課が業務を分担して実施した(表5)。講座を企画するのは毎年1

～2月頃で、学芸課学芸員から集めた次年度教室案をチェックし、学芸課サイドと意見のやりとりをしながら講座の案を固めた。基本的に、講座実施の裏方や広報を企画普及係が、受講者と直接関わる部分を学芸課が担当し、講座実施の際は学芸課2名(内1名がメイン担当者)+企画普及係1名の3名体制が基本であった。

講座の応募者を地域別に見ると地元の新居浜市が4割～5割を占め、次いで西条市・四国中央市・旧東予市及び周桑郡の東予地域が上位を占める(表6)。県内最大の都市である松山市からの応募増を如何に図るか、今後の課題といえよう。

表4 博物館講座の年次変遷(平成7年度～17年度)

	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17
講座数	66	66	66	54	54	49	52	51	43	46	54
応募数	2,739	2,683	2,216	2,644	2,506	2,756	2,819	2,131	2,294	1,716	1,891
定員	2,256	2,256	2,216	1,890	1,917	1,738	1,853	1,732	1,867	1,498	1,643
応募数/定員(%)	121.4	118.9	100.0	139.9	130.7	158.6	152.1	123.0	122.9	114.6	115.1
外部講師回数	35	46	40	23	10	6	5	9	4	5	5
外部講師率(%)	53.0	69.7	60.6	42.6	18.5	12.2	9.6	17.6	9.3	10.9	9.3
貸切バス回数	14	11	14	15	17	14	16	14	9	8	7
現地集合回数	1	0	0	0	0	0	2	0	4	5	4

表5 博物館講座実施に係る業務分担

業務区分	実務	企画普及係	学芸課
講座プログラム作成	講座基本案提示(予算・講座数等)	○	
	各講座案作成(各学芸員毎)		○
	外部講師への依頼(調整・決裁)		○
	講座実施日の調整・割付け	○	
	講座案の調整・決裁(館内及び本庁)	○	
関連業務	貸切バス年間計画作成	○	
	傷害保険年間契約	○	
広報	広報用チラシ・ポスター作成	○	
	広報資料配布	○	
受講者管理	受講受付(メール・FAX・ハガキでの受付及びデータ入力)	○	
	受講者の決定と通知(決裁)	○	
講座実施	下見(館外で実施の講座)	△	○
	講座実施決裁(各学芸員)		○
	講座テキスト作成		○
	当日受付(資料配布・保険料徴収等)	○	
	講座管理(進行・連絡調整等)	○	
	講座指導		○
講座終了後の業務	講師謝金・旅費支払い	○	
	報告書・アンケート処理	○	
	バス代・保険料支払い	○	

△下見に同行する場合もあった

表 6 博物館講座地域別応募者（平成7年度～17年度）

応募者住所	年度																	合計
	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17							
四国中央市	343	357	270	390	374	339	438	191	134	109	166	3,111						
新居浜市（旧別子山村含む）	1,615	1,417	1,013	1,109	986	1,253	1,178	1,031	1,130	605	772	12,109						
西条市（旧西条市）	59.0	52.8	45.7	41.9	39.3	45.5	41.8	48.4	49.3	35.3	40.8	45.9						
西条市（旧東予市・周桑郡）	308	263	308	326	314	306	364	368	273	219	175	3,224						
今治市（旧今治市）	11.2	9.8	13.9	12.3	12.5	11.1	12.9	17.3	11.9	12.8	9.3	12.2						
旧越智郡（現上島町含む）	208	256	217	239	268	285	148	110	144	138	188	2,201						
松山市（旧北条市・中島町含む）	7.6	9.5	9.8	9.0	10.7	10.3	5.3	5.2	6.3	8.0	9.9	8.3						
東温市（旧重信町・川内町）	57	180	187	256	237	216	164	98	186	178	158	1,917						
伊予市・伊予郡	2.1	6.7	8.4	9.7	9.5	7.8	5.8	4.6	8.1	10.4	8.4	7.3						
上浮穴郡	29	89	60	45	76	76	68	50	67	99	112	768						
大洲市・喜多郡	1.1	3.2	2.7	1.7	3.0	2.8	2.4	2.3	2.9	5.8	5.9	2.9						
八幡浜市・西宇和郡	72	45	82	138	133	131	319	198	256	282	188	1,844						
宇和島市・他の宇和郡	0.3	0.4	1.4	1.4	1.4	1.3	2.3	1.2	1.4	1.0	3.4	1.4						
県内合計	2,690	2,650	2,198	2,588	2,482	2,696	2,784	2,095	2,248	1,675	1,844	25,947						
香川県	98.2	98.8	99.1	97.9	99.0	97.8	98.8	98.3	98.0	97.6	97.5	98.3						
他県	23	17	10	43	15	8	17	15	28	22	19	217						
県外合計	0.8	0.6	0.5	1.6	0.6	0.3	0.6	0.7	1.2	1.3	1.0	0.8						
不明	7	14	3	1	2	0	8	1	13	17	21	87						
合計	30.3	0.5	0.1	0.0	0.1	0.0	0.3	0.0	0.6	1.0	1.1	0.3						
	1.1	1.2	0.6	1.7	0.7	0.3	1.1	0.8	1.8	2.3	2.1	1.0						
	19	2	8	12	7	52	10	20	5	2	7	144						
	0.7	0.0	0.4	0.5	0.3	1.9	0.1	0.9	0.2	0.1	0.4	0.6						
	2,739	2,683	2,216	2,644	2,506	2,756	2,819	2,131	2,294	1,716	1,891	26,395						
	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%						

西条市・今治市は合併前の郡市で区分し、新居浜・松山・東温各市は合併後の市域。

(2) 展示関連業務

当博物館で実施する展示業務には、来館者が常時見られる常設展を別にして、期間限定開催の特別展（毎年夏期に1回・有料展示・当初予算）・企画展（学芸員手作り展示・年数回・無料・既定予算）・巡回展（年1～2

回・原則無料・既定予算）がある。表7に、これまで開催した特別展等のテーマや開催期間等をまとめた。企画普及系が係事業として開催したのは巡回展のみであり、その他には特別展の一部業務を担当した（表8）。

表7 特別展等の実施状況

年度	分類	名称	会期	担当部署	入場者数	記念講演会
7	企	「夏だ！おもしろ博物館」	H 7. 8.13(日)～8.31(日)	学芸課全研究科	25,836	
	特	「ロボットの歴史と未来」	H 8. 2.10(土)～3.30(土)	科学技術研究科	35,036	
	巡	「エネルギー体験館」	H 7. 6.10(土)～6.25(日)	企画普及係	15,087	
		計			75,959	
8	特	「恐竜」	H 8. 7.14(土)～9.1(日)	自然研究科	51,215	○
		計			51,215	
9	企	「欧米の科学博物館」	H 9. 4.26(土)～5.25(日)	企画普及係	3,105	
	特	「出発進行！愛媛の鉄道」	H 9. 7.13(日)～8.31(日)	産業研究科	35,167	○
	巡	「宇宙開発の過去・現在・未来」	H 9.10.25(土)～11.24(月)	企画普及係	9,142	
		計			47,414	
10	企	「川の生きもの」	H10. 4.29(水)～5.10(日)	自然研究科	8,200	
	特	「たんけん！超ふしぎ館」	H10. 7.11(土)～8.30(日)	科学技術研究科	56,135	
	巡	「自然科学写真協会写真展」	H10. 9.12(土)～9.20(日)	企画普及係	2,731	○
	企	「愛媛の鉱山」	H11. 3.6(土)～4.11(日)	自然・産業	7,533	
		計			74,599	
11	特	「昆虫ワンダーランド」	H11. 7.10(土)～8.31(火)	自然研究科	51,886	○
	巡	「自然科学写真協会写真展」	H11.10. 9(土)～11.7(日)	企画普及係	4,632	○
	巡	「ふしぎ大陸 南極展」	H11.12.11(土)～12.1.16(月)	企画普及係	8,324	○
	企	「海の森・海藻の世界」	H12. 3.19(日)～5.7(日)	自然研究科	10,000	
		計			74,842	
12	特	「海のめぐみ」	H12. 7. 8(土)～8.31(木)	産業研究科	37,070	○
	巡	「自然科学写真協会写真展」	H12.10. 7(土)～10.29(日)	企画普及係	4,034	○
	企	「夢と科学のたどった道～20世紀～」	H12.12. 9(土)～13.1.14(日)	学芸+企画	3,668	
	企	「別子銅山と産業遺産」	H13. 2.24(土)～3.4(日)	産業研究科	2,291	○
		計			47,063	
13	企	「干潟の自然」	H13. 4.24(火)～5.6(日)	自然研究科	6,200	
	特	「人体」	H13. 7.14(土)～8.31(木)	科学技術研究科	32,876	○
	巡	「自然科学写真協会写真展&阿部幹雄写真展」	H14. 2.23(土)～3.10(日)	企画普及係	2,388	○
	巡	「すべての望遠鏡～宇宙を探る新しい眼～」	H13. 5.19(土)～6.10(日)	企画普及係	3,986	
	企	「翼大空へ～航空機と空港を知る～」	H14. 3.17(日)～4.14(日)	産業研究科	7,000	
		計			52,450	
14	企	「ふ・し・ぎミュージアム」	H14. 4.27(土)～5.26(日)	科学技術研究科	14,500	
	企	「仮想科学館」	H14. 6. 1(土)～6.30(日)	科学技術研究科	7,605	
	特	「花物語～花にかくされたひみつ～」	H14. 7.13(土)～9.1(日)	自然研究科	20,947	○
	巡	「実験ショーコンテスト受賞作品展」	H14. 9.28(土)～10.27(日)	企画普及係	3,387	
	巡	「自然科学写真協会写真展」	H14.11. 2(土)～11.17(日)	企画普及係	2,117	○
	企	「愛媛のキノコ」	H14.12.21(土)～15.2.2(日)	自然研究科	4,288	
	企	「昔の遊び！今の遊び！」	H15. 2. 8(土)～2.16(日)	科学技術研究科	6,339	
	企	「植物のおほえ方～野の草花・春編～」	H15. 2.27(木)～3.16(日)	自然研究科	3,000	
	企	「きれいないし」	H15. 3.22(土)～5.5(月)	自然研究科	20,732	
		計			82,915	
15	企	「愛媛の野鳥～写真で見る野鳥観察～」	H15. 5.11(日)～5.25(日)	自然研究科	1,689	
	企	「消えゆく生きものたち」	H15. 6. 1(日)～6.22(日)	自然研究科	3,568	
	特	「わくわく！エネルギー体験館」	H15. 7.12(土)～8.31(日)	産業研究科	29,045	○
	企	「渡る蝶」	H15. 9.20(土)～10.19(日)	自然研究科	4,000	
	巡	「第24回日本自然科学写真協会愛媛展」	H15.10.25(土)～11.9(日)	企画普及係	2,240	○
	巡	「ふれあい宇宙フェスティバル～きぼうの世紀へ～」	H15.12.13(土)～16.1.18(日)	企画普及係	6,567	○
	企	「身の回りのサイエンス」	H16. 1.24(土)～2.15(日)	科学技術研究科	4,559	
企	「愛媛の漁業 宇和海と瀬戸内海」	H16. 2.28(土)～5.9(日)	産業研究科	10,835		
		計			62,503	
16	企	「侵入者たち～外来生物について～」	H16. 5.22(土)～6.20(日)	自然研究科	1,300	
	特	「すごいぞ！わかしの生きもの」	H16. 7.10(土)～8.31(火)	自然研究科	33,723	○
	巡	「開館10周年記念収蔵品展」	H16.11.13(土)～17.1.10(月)	学芸課全研究科	14,700	
	企	「みて！さわって！つくろう！昔のおもちゃ」	H17. 1.22(土)～2.20(日)	科学技術研究科	13,400	
	企	「別子銅山写真展～」	H17. 3.5(土)～5.15(日)	産業研究科	20,478	
		計			83,601	
17	特	「さわって！あそんで！おもしろ科学ワールド」	H17. 7. 9(土)～9.4(日)	科学技術研究科	34,330	
	巡	「第26回日本自然科学写真協会写真展」	H17.10.22(土)～17.11.20(日)	自然研究科	2,909	
	企	「愛媛の鉄道写真展」	H17.12. 3(土)～18.1.29(日)	産業研究科	5,300	
	企	「ふしぎなホログラム」	H18. 2.18(土)～5.14(日)	科学技術研究科	39,596	
		計			82,135	
18	特	「昆虫No.1決定戦」	H18. 7.15(土)～9.3(日)	自然研究科	35,499	
	企	「秋の草花」	H18. 9.16(土)～11.26(日)	自然研究科	15,386	
	企	「WARNING！地球温暖化」	H18.12. 2(土)～19.1.8(月・祝)	科学技術研究科	5,991	
	企	「八幡浜の水産業」	H19. 1.20(土)～3.11(日)	産業研究科	5,300	
	企	「博物館講座展」	H19. 3.24(土)～5.13(日)	学芸課全研究科	9,000	
		計			71,176	
19	特	「きら☆びか☆りん ふしぎな光ミュージアム」	H19. 7.14(土)～9.2(日)	科学技術研究科	38,511	
	企	「愛媛の航空路今昔」	H19.10. 6(土)～12.6(日)	産業研究科	8,000	
	巡	「第28回日本自然科学写真協会写真展」	H20. 2.10(土)～3.9(日)	自然研究科	3,200	
	企	「天体写真展 星空への招待」	H20. 3.29(土)～5.25(日)	自然研究科	6,571	
		計			56,282	
20	特	「KARAKURI メカのしくみと動きのヒミツ」	H20. 7. 2(土)～8.31(日)	科学技術研究科	25,669	
	企	「おかしな機械」	H20.10. 4(土)～11.30(日)	科学技術研究科	20,081	
	巡	「毛利宇宙飛行士の部屋」	H20.12. 3(水)～12.28(日)	科学技術研究科	6,132	
	巡	「森のめぐみ 木のものがたり」	H20.12.20(土)～21.1.30(日)	自然研究科	10,395	
	企	「地衣類の世界」	H21. 2.28(土)～5.10(日)	自然研究科	-	
		計			62,277	
					924,431	

特：特別展 企：企画展 巡：巡回展
会場は企画展示室（20年度の巡回展は常設展示室等で開催）

表8 特別展業務分担表

業務区分	実 務	学芸課学芸員	企画普及係	実施時間	備 考
予算	予算要求		○	前年度	館内及び本庁説明
	予算資料作成	○	○	前年度	レイアウト図・概算費用積算等
展示関連業務 (事前)	資料収集	○		通常業務	資料の整理・保管及び調査研究
	展示企画	○		2～3年前	企画・連絡調整・各種資料作成
	展示物製作	○		2～3年前から	科学体験展示物, 生物・地学標本等
	展示資料借用	○		2～3年前から	館外諸機関連絡調整
	実施設計委託	○	○	前年度	外部業者発注
	工程表作成	○		当該年度当初	作業項目と日程
展示製作	展示工事発注	○	○	当該年度	外部業者発注 (造作・造形・電気工事等分割)
	工事監理委託	○	○	当該年度	実施設計業者
	展示解説原稿執筆	○		当該年度	学芸員 (メイン担当者)
	展示パネル (一部)	○		当該年度	学芸員 (メイン担当者)
	展示ガイド原稿執筆	○		当該年度	担当学芸員
印刷物製作	ポスター・チラシ		○	当該年度	外部業者発注
	展示ガイド		○	当該年度	原稿執筆は担当学芸員
	観覧チケット	—	—	当該年度	総務課担当
広報	ポスター・チラシ送付		○	2ヶ月前	関係機関送付 (学校・役所・社会教育機関等)
	マスコミ対応		○	2ヶ月前～	記者発表・取材対応など
	有料広告		○	2ヶ月前～	広告代理店などに委託
開催関連業務	展示監視員労務管理		○	前月～終了まで	募集・採用は管理職 (振興課長) 担当
	展示監視員研修	○		オープン前日	担当学芸員が講師
	オープニングセレモニー		○	オープン当日の朝	地元関係者を招く
	記念講演会		○	開催期間内	展示関連分野の研究者を講師として招く
	関連イベント	○	○	開催期間内	展示見学会, 博物館講座等

特別展は毎年夏期に開催する当館最大の事業であり、当初予算に計上される有料の展示事業である。また、当館にとって特別展は、館の集客・収入増、学芸員の調査研究成果の還元、社会教育機関としての博物館の教育プログラム提供といった役割が課せられ (岩田,1999)、こうしたことから、館全体のエネルギーを注いで取り組むべき展示事業と位置付けられた。表8に示すとおり、特別展の根幹に関わる部門 (展示企画・展示資料等) は学芸課 (担当学芸員) が担当し、書類業務・広報・イベント関係は企画普及係が担当した。なお、展示工事や実施設計の発注業務については、平成10年度までは本庁もしくは企画普及係 (筆者) が行ったが、それ以降は学芸課が行った (表8では両者に○)。

巡回展については、教育普及活動の一環として実施するという考え方から、企画普及係が一貫して担当した。ただし、前述のとおり企画普及係の人員が削減された16年度以降は、係業務としての巡回展を実施していない。巡回展業務の基本は、全国巡回が可能のようにパッケージ化された展示物を受入れ (輸送・設営は巡回元)、運営マニュアルにしたがって期間中管理運営し、展示期間が終われば撤収 (巡回元担当) という一連の流れで行われる。比較的低廉な予算で水準の高い展示を開催できる

事がパッケージ化された巡回展の最大のメリットで、当館では教育普及活動の一環として企画普及係学芸員が担当する業務とし、学芸課学芸員が収蔵資料や借用資料を使ってオリジナル企画を立てる特別展・企画展とは別に位置付けた。ただ、平成9年度巡回展「宇宙開発の過去・現在・未来」については、この年に限り巡回展展示事業費が当初予算で計上されたので有料 (大人500円・小中250円) とせざるを得ず、有料料金に見合う展示内容を提供する為、巡回パッケージ部分 (会場の企画展示室の2/3) に加え、残り1/3の部分企画普及係がオリジナルの展示を企画・製作した。

なお表6には、各展示の入場者数と、展示に付随して開催された記念講演会の実施状況が記載されている。毎年1回夏に開催する特別展は当館で最も集客力の高い事業で、特に平成8年度から10年度には毎回5万人を超える入場者 (観覧料売上1500万円前後) があつた。平均しても3万8千人位の入場者があり、無料ではあるが入場者数が平均数千人程度の企画展・巡回展に比べて動員力・情報発信力は大きい。その分、特別展に掛ける予算や担当学芸員の労力や緊張感は間違いに大きい。平成21年4月から指定管理者制度が導入される中、特別展を館側 (学芸課) と指定管理者側でどのように分担し、ど

表9 科学講演会の分類

分類指標	区分	小区分	実施回数
講演対象	小中学生（おもしろ科学講座）		8
	教育関係者（教育講演会）		1
	一般・高校生以上（上記以外）		41
講演会場	多目的ホール	記念講演会*	10
		館長講演会	2
		おもしろ科学講座	8
		予算措置事業	14
	第一研修室		14
	プラネタリウム		1
	その他（新居浜市民文化会館）		1
講演形態	科学解説主体の 一般的な講演会	自然史（生物・地学）	12
		理工（物理学・化学等）	18
		その他	5
	科学実験（小中学生を対象とした実験ショー等）		8
	写真解説（自然科学写真を見ながら解説）		6
	その他		1
	記念事業 有無	記念講演会	特別展（夏）等記念事業
その他（ギネス・閉館10周年）			2
一般講演会		31	

*特別展(夏)記念講演会, ギネス認定記念シンボ基調講演, 閉館10周年記念講演

の程度の予算配分を行い、展示内容・テーマをどう調整していくか、大きな課題ではあるが緊密な連携と協力の下、双方にプラスの結果が出るよう努力したいと考えている。

（3）科学講演会の実施

科学講演会の目的は、地域住民に最新の科学情報を提供し、科学に関する理解増進を図る事であるが、博物館からの情報発信・館の集客宣伝・関連事業（展示等）との相乗効果増大等も意図された。

平成7年度から17年度に合計50回の科学講演会を実施し、累計で10,380人の受講者があった。50回の科学講演会をいくつかの指標で分類すると表9のようになる。最大公約数的には、「一般（高校生以上）を対象とし、多目的ホールを会場として解説主体の科学講演会」を多く開催したといえるが、プラネタリウムを会場としたり、また実験ショー主体の科学講演会もあったりと、様々な講演会を開催した。開催に際しては、講演のテーマ・対象と連動した広報・集客計画を事前に立てておくことや講師との十分な事前調整が必要な事など、事前準備を計画的に行っておくことが重要である。なお、科学講演会の実施状況については、昨年度の研究報告で開催実績・実施手順・教育成果等の詳細を報告したので参照されたい（岩田，2008）。

（4）展示案内員管理業務

展示案内が館の教育普及活動の一端を担うとの考えから、展示案内員の管理は企画普及系の担当となった。

展示案内業務の解釈としては正解と思えるが、企画普及係が担当する業務のうち、最も多大な労力が掛かったのは展示案内員の労務管理（勤務管理・指導研修・各種連絡調整・相談等）であった。

展示案内員の身分は非常勤嘱託であり、博物館の組織内に位置する非常勤の県職員と位置付けられている。展示案内員の人数は開館時から平成17年度まで15名（教員OB2名＋女性案内員13名）であったが、財政状況悪化に伴う予算削減のため、18年度は10名（教員OB1名＋女性案内員9名）、19年度以降は5名（教員OB1名＋女性案内員4名）に急減した。なお、13名の女性案内員の監督・指導役として教員OBが配置されてきたが、科学博物館であるにもかかわらず理科教員OBが全く配置されることがなかったり、女性案内員が13名在籍するにもかかわらず退職女性教員が一度も配置されることがなかった。現場の要望や課題もあったけれども実現には至らなかった。

企画普及係は展示案内員管理業務以外に多種多様の業務を抱え（表3）、実質的にそれら業務を遂行するだけで手一杯の状態であったが、その他に、15名の展示案内員の労務管理が課せられた。15名の展示案内員の管理をまともに行おうとすれば、専任係員が「一人役」必要な業務の量・内容だと思いが、実際には係内の展示案内員担当者（筆者他）が担当業務の一つとして行わざるをえなかったのが実情である。本来なら、館の警備業務や清掃業務を外部の専門業者に委託しているのと同じく、人

材開発や労務管理等を専門とする外部業者へ委託すべき業務の範疇に入ると思うが、県の直接雇用のまま館がスタートし、20年度まで継続された。21年度からは指定管理者（人材派遣会社）への委託業務の一つとして展示案内業務が委託される事になったので、当該指定管理者による繁忙期と閑散期の弾力的な運用や人材開発・労務管理面での業務経験が期待される。

(5) 学校教育との連携

博物館法において「博物館は学校を援助云々………」という主旨の条文が記載されているとおり（博物館法第3条第1項第11号，同第2項），事業成果を学校教育現場に提供する事は博物館の重要な業務と考えている。

当館において学校教育との連携の観点から実施されている業務は表10のとおりである（表中の項目については、当館での実績に加え、丹青研究所（2001）、全国科学館

表10 総合科学博物館における学校教育連携事業

	事業項目	備 考
1	学校団体事前申込，同下見受付	事前に要望やスケジュールを確認
2	学校団体見学手引き作成と配布	年度末から年度初めに各学校配布（四国4県）
3	学校団体オリエンテーション	展示案内員（教員OB）が説明
4	学校団体来館時の昼食場所確保	オリエンテーションルーム優先利用
5	市町教育委員会訪問	学校教育担当課に館事業を説明
6	県内校長会等への働きかけ	校長会・教頭会で館事業を説明
7	常設展示観覧料免除	小中学生は無料（県内外問わず）
8	特別展・プラネタリウム観覧料免除	県内小中高が団体利用の際に無料観覧を適用
9	学習ノート作成・配布	学校団体に無料配布（平成17年度まで）
10	常設展示の解説	事前に要望があり，学芸員の都合がつけば
11	プラネタリウム学習投影	夜間，学校団体対象に開催（館の都合にもよる）
12	理科教員対象の研修会実施	理科教員を対象に天体観測や物理実験
13	出前講座で学芸員を学校に派遣	県内小中学校で実験や自然観察の指導
14	博物館資料貸出し	学校の依頼に応じて資料を貸出し
15	職場体験受入れ（インターンシップ）	近隣中高生受け入れ，博物館業務を体験
16	小中高生対象の施設見学会実施	展示バックヤード等を見学（平成17年度まで）
17	小中学生対象の講座実施	親子自然教室（小＋保護者），科学工作教室・科学実験教室（小中）
18	小中学生対象の科学講演会実施	大規模な物理実験ショー（平成16年度まで）
19	当館科学イベントに小中高校が参加	科学イベントに小中高校が参加（平成19年度から）

項目は丹青研究所（2001）も参考にした。

表11 出前講座による学芸員館外派遣実績

件数（ ）内は「総合的な学習の時間」の件数

年度	9	10	11	12	13	14	15	16	17
小学校	1	0	2	8	13(2)	17(2)	26(2)	32(4)	30(6)
中学校	0	0	1	0	2(1)	6(5)	4(4)	7(5)	6(3)
高校	1	0	0	0	0	3(0)	3(0)	1(0)	2(0)
小計	2	0	3	8	15(3)	26(7)	33(6)	40(9)	38(9)
その他*	7	8	12	14	14(0)	29(0)	35(0)	36(0)	46(0)
合計	9	8	15	22	29(3)	55(7)	68(6)	76(9)	84(9)

*その他：公民館，児童館等 16・17年度は地域子ども教室の派遣件数を含む

協議会（2001）を参考にした）。現在、当館で最も活発に行われているのは出前講座による学芸員の派遣で、平成9年度以来の記録を見ると近年大幅に派遣数（つまり学校からの要望数）が増えている（表11）。この要因としては、平成12年度から当館が教育委員会所管になり同じ県教委内で学校と博物館が連携しやすい体制ができた事、平成14年度から「総合的な学習の時間」及び学校完全週5日制が始まり、学校と博物館との連携が期待された事が考えられる。学芸員の派遣の他に、学校への博物館資料貸出しや理科教員研修といった教育現場に直結した連携事業も行っているが、件数は学芸員派遣実績ほど多くないので、今後の課題と考える。

（6）友の会

総合科学博物館友の会は平成7年10月1日に設立され、今日まで多彩な活動を続けてきている。友の会事務局を博物館内に置き、友の会支援事業の一環として事務局業務を企画普及係が受け持ってきた（事務局長は振興課長が務める）。事務局の業務には、事業予算作成・事業計画策定・総会開催・会計処理・事業実施・広報等があり、友の会予算で専任職員を1名雇用し、企画普及係の一隅に専用事務机を構えて事務にあたっている。

友の会の会員数は表12のとおり近年減少傾向にはあるが、それでもまだ千人の大台は確保している。漸減傾向にある会員数を如何に増加に転じ、設立後数年間のように会員数が増加傾向にある「足腰の強い」組織にしているか、今後の課題といえる。

表12 友の会および各クラブ会員数変遷

年 度	友の会会員数		天文クラブ会員数		科学クラブ会員数		自然クラブ会員数	
	組数	人数	組数	人数	組数	人数	組数	人数
7	381	1,303	—	—	—	—	—	—
8	420	1,517	—	—	—	—	—	—
9	437	1,608	26	82	—	—	—	—
10	453	1,676	33	113	—	—	—	—
11	435	1,607	35	124	36	148	—	—
12	452	1,706	33	125	38	150	40	160
13	498	1,824	43	166	54	218	52	212
14	461	1,739	44	157	57	222	54	204
15	423	1,550	52	186	56	213	57	206
16	391	1,492	57	209	60	242	60	219
17	332	1,255	51	189	51	202	49	178
18	342	1,299	54	190	59	232	46	172
19	326	1,178	54	176	66	245	48	158

設立 天文クラブ：平成9年2月，科学クラブ：平成11年4月，自然クラブ：平成12年6月

表13 友の会クラブとの共催事業

年度	わくわく ミュージアム	夏だおもしろ 実験祭り	公開天文台	種であそぼう	地域子ども教室	
					天文教室	科学教室
11	6,800	—	—	—	—	—
12	6,600	7,000	—	—	—	—
13	15,000	7,500	—	—	—	—
14	14,362	6,422	—	378	—	—
15	8,212	10,477	—	2,000	—	—
16	11,047	8,284	470	2,000	329	790
17	8,300	8,000	436	552	475	393
18	8,188	9,091	685	410	513	513
19	8,173	9,197	988	2,390	—	—
合計	86,682	65,971	2,579	7,739	1,317	1,696

総合科学博物館の友の会で特徴があるのは、会員の中の有志が集まって設立したクラブの存在である。これまで、天文クラブ（設立：平成9年2月）、科学クラブ（同平成11年4月）、自然クラブ（同平成12年6月）の3クラブが発足し、友の会事業（天体観望会・工作教室・科学教室の企画運営）や博物館との協働（表13）、あるいはクラブ独自の事業（指導者派遣等）を行っている。最初に発足した天文クラブはめぐり合わせでできた側面もあり、たまたま当時企画普及係に在籍した部下の行政職員が天体観測のベテランで、既に友の会の天体観望会で観測指導をしていたが、人事異動により他の部署に変わっても博物館や友の会に関わる事ができないか相談するうちに、地域在住の天文マニアを集めて発起人とし、年齢や経験にかかわらず天文に興味があれば誰でも参加できるクラブを友の会の中で立ち上げ、友の会事業の一つとしてクラブを位置付けて活動していこうということになった。このように地域住民（クラブ組織）と行政（博物館）が一体となって活動する事例は県内では珍しかったが（平成8-9年当時）、県外の先進科学館では既に実施している所もあった。この後、科学・自然両クラブが相次いで設立され、科学実験や自然観察に興味がある地域の人たちを結集し、博物館施設を彼らの活動の場に提供するという地域住民との交流システムが出来上がった。

表13にある博物館との共催事業においては、当初は館の学芸員が中心になって企画運営したが、現在では実質的にクラブ員が実施事業の大部分を担うまでになった。友の会クラブ員として博物館事業に関わり、自分がしたい事を実現しつつ地域の役に立ちたいという熱意ある地域住民の受け皿としてクラブが機能している。ボランティアという形態こそとっていないが、実質的には科学博物館を舞台としたサイエンスボランティア的活動をクラブ発足以来行っている。このように、当館は友の会クラブを通して地域の多彩な人材に活躍の場を提供し、博物館を核とした人的ネットワークが出来上がった。4月以降、指定管理者が館の運営に携るようになってからも、これまでと変わらず友の会及びクラブがその役割を果たすよう期待している。

（7）広報

企画普及係が担当した博物館の広報業務には、広報資料定期発送、広報資料製作（各事業のチラシ・ポスター、たより等）、メディアへの取材対応等がある。

広報資料の定期発送は、博物館だより発刊（年4回）とプラネタリウム広報資料製作（番組入替えに合わせて年4回）が同時期にあることから、年4回（6月・9月・12月・2月）、県内（県庁各部署・市町村・学校・社会教育機関等）と県外（主に博物館・図書館・大学等）合わせて毎回650箇所配布した（ただし、約600校ある県

内各小中学校には市町村毎にまとめて各教委経由で配布した）。これ以外に、年度初め（博物館講座資料・年間行事表）に1500箇所、特別展開催前の6月下旬から7月当初にチラシ・ポスターを約2000箇所配布した。更に毎月、県内外の情報紙誌等約30箇所にイベント情報の提供を行った。

広報資料製作は、上記定期発送印刷物（チラシ・ポスター・たより等）の製作がメインである。特に特別展のチラシ・ポスターについては、展示を担当する学芸課学芸員との緊密な意思疎通と連携の下、学芸員の展示意図を損なわない一方で集客効果を高めるデザインに仕上げることが必要であり、そのためには業務委託した印刷会社（の担当者）に館側の展示とデザインの意図を正確に伝える事が必須となる。また、一定期間内に多量の集客を図る特別展においては、広報資料の出来不出来が展示の成否の一端を担うことがあるので、広報担当者としては、博物館で展示が果たす役割や特別展の製作過程、更にいうならば担当学芸員の特別展にかける思いなどを理解した上で広報資料製作に関わる事が必要だと考える。

マスメディアへの対応は年間60-70件程度あったが、電話・Fax・メールでの対応と現場取材の対応の二通りある。現場取材では最初に窓口として企画普及係担当者（筆者）が対応する事が多く、内容や先方の要望によって担当学芸員に対応を振り分ける事もあった。いうまでもないことだが、日頃から本庁の広報セクションや各マスコミと良好な関係を築いておく事や館を挙げて取材への協力態勢をとる事がスムーズな取材を可能にすると考えられる。

3 まとめ

筆者は平成7年度から17年度まで企画普及係長（専門学芸員）として、総合科学博物館の企画普及業務（博物館の教育普及活動及び関連業務）に携ってきた。この間、学芸分野の成果に関する教育情報の発信や教育プログラムの企画運営を行ってきたが、現在当館では、諸般の事情により企画普及係に学芸員が配置されていない。平成15年度までは筆者を含めて学芸員が3名在籍したが、1名削減されて16-17年度は2名（専門学芸員（係長）1名+主任学芸員1名）になった。筆者が学芸課に異動した18年度からは学芸員職である専任の企画普及係長を置かず、振興課長が企画普及係長兼務となり主任学芸員2名が在籍、19年度は主任学芸員1名、20年度は学芸員の在籍数がゼロとなり、従来の業務を館内で分担することとなった。

企画普及係の学芸員が削減された原因としては、休職者や学芸員の退職者があったことにより学芸課の人員配置がギリギリの状態になり、企画普及係に配置する学芸員を削減して学芸課に回したことがある。また、企画普

及係が博物館の4機能の一つである教育普及活動を担当する以上、学芸員を配置するのは自然な事と思えるのだが、企画普及係の業務が単なる事務処理にすぎないと見なされがちなることもあり、そうした見方も削減の一因となったと解釈している。当館と同規模の県歴史文化博物館の企画普及係には20年度も学芸員が2名配置されており、当館とは対照的である。これまでの経験でいえば、学芸員としての知識・経験・物の見方が企画普及係の大部分の業務には必要条件と考える。

ともあれ21年4月から、企画普及係がこれまで担当してきた業務のほとんどが指定管理者に引き継がれ、それら業務が博物館事業の中核として実施される事になるので、なおさら事業の継続性が求められることになる。そうした意味で、本稿が少しでも役に立てば幸いである。

文 献

- 岩田憲二（1998）：総合科学博物館における教育普及活動について。愛媛県総合科学博物館研究報告，No.3，PP119-126
- 岩田憲二（1999）：総合科学博物館における企画展の開催状況について。愛媛県総合科学博物館研究報告，No.4，PP3-6
- 岩田憲二（2008）：総合科学博物館における科学講演会の開催について－平成7年度～17年度。愛媛県総合科学博物館研究報告，No.13，PP19-33
- 全国科学博物館協議会（2001）：科学系博物館における教育普及事業に関する調査研究。平成13年度調査報告書，pp.13-17
- 丹青研究所（2001）：総合学習とミュージアム。教育新聞，2194号